

2024 年差別ゼロデー

みんなの健康を守るには、 みんなの権利を守ろう



すべての人の権利が守られれば、エイズ終結は可能です。

「公衆衛生上の脅威としてのエイズ終結」の 2030 年達成に向けて、世界は大きく前進してきました。人権を守ることでもたらされた成果です。

しかし、女性や少女、キーポピュレーションをはじめ、疎外されがちなコミュニティに対して、あえて懲罰を科し、差別し、スティグマを生み出すような法律や政策、慣行が存在し、それが人権を侵害して HIV の予防、検査、治療、ケアへのアクセスを妨げている現実もあります。

人びとの権利を侵害する法律を撤廃し、すべての人の権利を擁護する法律を導入することが緊急に必要です。エイズ終結への道は権利擁護の道です。

最近、女性の権利、LGBTQ の人たちの人権、性と生殖に関する健康と権利、民主主義や市民活動の場などを脅かす動きが、世界中で巧妙に組織化され、しかも多額の資金まで獲得しています。このことがすべての人にとって、自由への脅威となり、同時にすべての人の健康に対する脅威にもなっているのです。

こうした脅威に対しては、エイズ運動とそれに賛同する人たちが「後退(pushback)を押し戻し(pushing back)」、すべての人の人権を守るという決意を示して、世界の指導者らに自らの約束を思い出すよう求めています。世界のコミュニティが人権擁護に立ち上がる中で、国連はその味方(on their side)になっているだけではなく、推進役(by their side)でもあるのです。

今年 3 月 1 日で差別ゼロデーは 10 周年を迎えます。すべての人の人権を守る責任は、私たち一人ひとりにあります。差別をなくすために、誰もがその役割を果たすことができます。3 月 1 日には、そして 3 月全体を通じて、この大切な教訓を思い起こし、行動を呼びかけるためのイベントや様々な活動、そして「みんなの健康を守るには、みんなの権利を守ろう」というメッセージが世界に向けて発信されます。

ソーシャルメディア向け キャンペーン素材

